

## 看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造

一柳陽子<sup>1)</sup> 谷山牧<sup>1)</sup> 山崎千寿子<sup>1)</sup> 武内和子<sup>1)</sup> 小濱優子<sup>1)</sup>

### 要 旨

本研究では、看護学生の入学・職業選択動機の実態と因子構造を把握することを目的として、看護学生の入学・職業選択動機尺度を作成し評価を行った。質問項目16項目を作成し、入学・職業選択動機予備尺度に含めた。平成20年4月にA看護短期大学に在籍する2年次学生78名を対象として質問紙調査を実施し、77名から回答を得た(回収率98.7%)。因子分析の結果、入学・職業選択動機尺度は【内発的動機】【経済面・自立】【過去の経験】【夢・憧れ】【他発的動機】という5因子により構成されていることが明らかになった。これらを下位尺度とした場合の1ヵ月後の再現性は0.4から0.8であった。下位尺度の平均値は【経済面・自立】が最も高く、次いで【内発的動機】、【夢・憧れ】が高かった。逆に、【他発的動機】、【過去の経験】の平均値は低いことが明らかになった。

キーワード：看護師志望動機、尺度開発、看護教育、看護学生、学習意欲

### I. 緒言

看護師を志す動機は人それぞれであり、看護大学及び看護短期大学に入学してくる学生たちもさまざまな理由を持っていると考えられるが、多くの学生たちは、将来、看護職に就くことを希望して入学してくる。看護職は高度な知識と技術を必要とされる国家資格であり、知識や技術を身につけるためには、ただ、教えられた学習だけをこなすのではなく、主体的に学び続ける姿勢が必要であると考えられる。主体的に学び続けるためには、それを維持するためのモチベーションが必要であり、そのモチベーションは、「なぜ看護師を志したのか」という自己の動機に影響を受けるのではないかと考える。しかし、現在は、大学化の影響もあり、必ずしも看護師になることを最終目標として入学する学生ばかりではない。

経済不況の中にある現在でも、看護職は人手不足が叫ばれており、就職先は多く比較的安定している職業である。したがって将来を考え、親に進められて看護職を目指す学生もいる。また福祉の現場を体験した社会人が看護職を目指すというケースも決して少なくはないようである。このように学生たちの入学・職業選択の動機は多岐にわたるため、入学し

てからの学習へのモチベーションは、個々の学生によって大きく異なることが考えられる。

学生の入学・職業選択動機は、教育支援や教授活動に生かす目的で、各学校でさまざまな形で実態調査が行われている<sup>1)~7)</sup>。志望理由としては看護師の職業的・社会的意義<sup>1)</sup>、人間的成長、キャリアアップ、社会貢献ができることに価値をみいだしており、学生は主体的な判断で入学を決定しているとの報告もある<sup>5)</sup>。

看護学生を対象として行われた欧米での先行研究において、多く挙げられた看護職選択の理由は、「他者を助ける仕事である」、「人と接する仕事である」、「自分自身や近い人の病気/入院経験」、「安定した職業である」、「精神的に満足できる」などがあった。調査により回答者の割合は異なるものの、ほぼ5割以上の対象者が上記の理由を職業選択理由として挙げていた。また、動機として挙げられるものの件数が少なかった項目としては、「メディアの影響」、「昔からの夢」、「科学や疾患への興味」、「経済的な安定」などがあった<sup>8)~11)</sup>。しかしながら、学生の入学・職業選択動機の調査は研究者毎に異なる質問項目を使用しており、妥当性や信頼性について十分に検討された尺度は存在しないのが現状である。

本学においても、基礎看護技術力を向上させるた

1) 川崎市立看護短期大学

めの自主的な看護技術練習の機会を提供していこうと考えており、学生の自主的な参加を呼びかけている。入学・志望の動機によって学習への態度や意欲が影響を受けるならば、技術教育においても、学生たちがどのような入学・職業選択動機をもち、学習へ取り組んでいるのかを明確にすることは重要であると考え。その前段階として、本研究では、看護学生の入学・職業選択動機尺度を作成・評価し、その実態を調査することを目的とする。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 質問紙の作成

本調査で用いる質問項目を作成するために、CiNiiにて「看護学生」「志望」「動機」をキーワードとし文献を検索し、13件の文献の中から内容を検討した7件を選択し<sup>1) - 7)</sup>、入学・職業選択動機に関する質問項目を抽出した。また、欧米での先行研究結果<sup>8) - 11)</sup>や職業選択動機として予測される項目を含み、56項目のアイテムプールを作成した。類似性と差異性を比較検討し、同じ内容で表現が異なると思われるもの（たとえば「社会貢献したかったから」「社会の役に立ちたい」など）に関しては、研究者間で確認しながら、1つの質問項目に集約した。

最終的に、16の質問項目を含む看護学生の入学・職業選択動機予備尺度を作成した（表1）。調査票の回答は、「5：当てはまる」「4：やや当てはまる」「3：どちらともいえない」「2：やや当てはまらない」「1：当てはまらない」の5件法とした。

表1. 看護学生の入学・職業選択動機予備尺度質問項目

質問項目
1 やりがいのある職業だから
2 幼い頃から憧れていた職業だから
3 医療系のテレビやドラマの影響を受けたから
4 資格がとれ、一生続けられる職業だから
5 収入が安定しているから
6 経済的に自立できるから
7 自分の病気・通院の体験から
8 家族・身近な人の病気・通院の体験から
9 人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから
10 人と関わる仕事をしたかったから
11 人の身体や心に関する学問に興味があったから
12 社会に貢献したいから
13 親や教師などに勧められたから
14 他にやりたいことがなかったから
15 看護の学校が近かったから
16 他の医療職（医師・薬剤師など）を志したが無理だったから

第1回、第2回のデータを照合するために、すべての回答者に6～8桁のパスワード設定と記述を依頼した。

### 2. 調査対象および調査方法

A看護短期大学2年生で、調査に同意の得られた学生を対象とした。平成20年4月、5月に同じ調査票を用いて、約1ヶ月の間隔をあげ、合計2回の調査を実施した。対象者数は、第1回78名、第2回75名であった。第1回の調査票の配布は74枚、回収73件、有効回答率98.6%であった。第2回の調査票の配布は75枚、回収72件、有効回答率96.0%であった。

### 3. 分析方法

入学・職業選択動機尺度の構造を明らかにするために、第1回目調査で得られた結果についてプロマックス回転法による因子分析を行い、下位尺度の信頼性検討のためにクロンバック $\alpha$ 係数を算出した。下位尺度間の関連性についてはスピアマンの相関係数を求めた。再現性検討のために第1回目、第2回目のスコアについてスピアマンの相関係数を求めた。統計解析ソフトはSPSS11.0Jを用いた。

### 4. 倫理的配慮

調査前に本研究の趣旨を伝え、協力は自由意志であり成績などの学業成績とは関係ないこと、途中の中断も可能であること、結果は本研究以外に用いないこと、プライバシーの保護などを説明した。また調査結果は統計処理を行い、研究として発表されることなどを説明した。

## Ⅲ. 結果

### 1. 学生の入学・職業選択動機の実態

第1回調査における入学・職業選択動機予備尺度の回答結果を表2に示す。入学・志望の動機として平均値が高い項目は、「資格がとれ、一生続けられる職業だから」、「やりがいのある職業だから」、「経済的に自立できるから」、「収入が安定しているから」、「人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから」であった。逆に平均値の低い項目は、「看護の学校が近かったから」、「他の医療職を志したが無理だったから」、「他にやりたいことがなかったから」であった。

### 2. 入学・職業選択動機尺度の構造と信頼性・妥当性の検討

表 2. 看護学生の入学・職業選択動機の実際

質問項目	N	range	mean±SD
1 やりがいのある職業だから	77		4.4±0.7
2 幼い頃から憧れていた職業だから	77		2.8±1.6
3 医療系のテレビやドラマの影響を受けたから	77		2.9±1.3
4 資格がとれ、一生続けられる職業だから	77		4.5±0.8
5 収入が安定しているから	76		4.3±0.8
6 経済的に自立できるから	77		4.4±0.7
7 自分の病気・通院の体験から	77	1～5	2.3±1.5
8 家族・身近な人の病気・通院の体験から	77		3.0±1.6
9 人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから	77		4.2±0.8
10 人と関わる仕事がしたかったから	77		4.0±1.1
11 人の身体や心に関する学問に興味があったから	77		3.7±1.2
12 社会に貢献したいから	77		3.1±1.2
13 親や教師などに勧められたから	77		2.3±1.4
14 他にやりたいことがなかったから	77		2.0±1.2
15 看護の学校が近かったから	77		1.3±0.7
16 他の医療職を志したが無理だったから	77		1.8±1.3

入学・職業選択動機尺度の構造を明らかにするために、全 16 項目に対し、プロマックス回転法による因子分析を行った。因子負荷量 0.35 未満の項目、2 因子にまたがって 0.35 未満の負荷を示す項目、1 因子に質問項目が 1 項目以下となるものを除いた 15 項目を選出した。その結果、解釈可能な 5 因子が抽出された（表 3）。各因子に負荷量の高かった項目を解釈して、因子を命名した。

第 1 因子は「役に立ちたい」「人との関わり」「身体的学問」「社会貢献」といった役に立ちたい、関わりたい、身体的なことを知りたい、社会貢献したいといった自己の内発的動機に関する 5 項目から構成されており、【内発的動機】と命名した。第 2 因子は「資格」「収入」「経済的自立」といった生活基盤の安定が考慮された 3 項目から構成されており、【経済面・自立】と命名した。第 3 因子は「自分の体験」「家族の病気」といった、過去に自分や家族が通院・入院し、看護師と関わった経験から構成されており、【過去の体験】と命名した。第 4 因子は「やりがい」「憧れ」「メディアの影響」といった子どもの頃からの理想や、医療系ドラマや本などによって作られる自分のめざす看護師像などに関する 3 項目から構成されており、【夢・憧れ】と命名した。第 5 因子は「周囲の勧め」「他にやりたいことがない」「学校が近い」といったどちらかというと積極的な動機ではない動機の 3 項目で構成されており、【他発的動機】と命名した。

それぞれの因子を下位尺度とし、下位尺度間の関連性を検討したところ、【内発的動機】と【夢・憧れ】( $r=.23$ ,  $P<0.05$ )、【経済面・自立】と【他発的動機】( $r=.26$ ,  $P<0.05$ ) について、有意な相関関係が認められた。さらに信頼性の検討を行った結果、クロンバックの  $\alpha$  係数は 0.43 ～ 0.79 の範囲であった（表 3）。

再現性検討のために、平成 20 年 4 月と 5 月に実施した調査結果のデータマッチングが可能であった対象者 38 名について、第 1 回目、第 2 回目の各因子の平均得点について相関係数を算出した。結果、第 1 因子【内発的動機】においては 0.76 ( $P<0.001$ )、第 2 因子【経済面・自立】は 0.56 ( $P<0.001$ )、第 3 因子【過去の経験】は 0.57 ( $P<0.001$ )、第 4 因子【夢・憧れ】は 0.71 ( $P<0.001$ )、第 5 因子【他発的動機】については 0.39 ( $P<0.05$ ) と、高い再現性を示した。

### 3. 入学・職業選択動機下位尺度の得点

各因子を下位尺度として、それらに含まれる項目の平均値を下位尺度スコアとして表 4 に示した。最もスコアが高かったのは【経済面・自立】であり、次いで【内発的動機】、【夢・憧れ】と続いた。スコアが低かったのは【他発的動機】、【過去の経験】であった。

表3. 看護学生の入学・職業選択動機予備尺度の因子パターン

項目内容	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
【内発的動機】( $\alpha=.78$ )					
12 社会に貢献したいから	.728				
11 人と関わる仕事をしたかったから	.723				
10 人の身体や心に関する学問に興味があったから	.695				
9 人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから	.590				
【経済面・自立】( $\alpha=.79$ )					
6 経済的に自立できるから		.868			
5 収入が安定しているから		.818			
4 資格がとれ、一生続けられる職業だから		.557			
【過去の体験】( $\alpha=.50$ )					
7 自分の病気・通院の体験から			.833		
8 家族・身近な人の病気・通院の体験から			.445		
【夢・憧れ】( $\alpha=.50$ )					
3 医療系のテレビやドラマの影響を受けたから				.618	
2 幼い頃から憧れていた職業だから				.529	
1 やりがいのある職業だから				.415	
【他発的動機】( $\alpha=.43$ )					
13 親や教師などに勧められたから					.502
15 看護の学校が近かったから					.5
14 他にやりたいことがなかったから					.511
寄与率	16.6%	12.7%	7.9%	6.1%	4.7%
累積寄与率	16.6%	29.3%	37.1%	43.2%	48.0%

表4. 看護学生の入学・職業選択動機下位尺度スコア

サブスケール	N	range	mean $\pm$ SD
内発的動機	77		3.7 $\pm$ 0.8
経済面・自立	76		4.4 $\pm$ 0.6
過去の体験	77	1.0~5.0	2.6 $\pm$ 1.3
夢・憧れ	77		3.4 $\pm$ 0.9
他発的動機	77		1.9 $\pm$ 0.8

## IV. 考察

### 1. 入学・職業選択動機尺度の構造

本研究では、看護学生の入学・職業選択動機を把握するための入学・職業選択動機尺度を作成し、その信頼性・妥当性を検討し、実態を検証した。全15項目からなる尺度に対する因子分析の結果から、本尺度は【内発的動機】【経済面・自立】【夢・憧れ】【過去の経験】【他発的動機】の5因子から構成されることが明らかになった。これらの因子は、欧米での先行研究<sup>8)・11)</sup>で抽出された職業選択の理由を包含するものであった。

各因子を下位尺度とし、1ヶ月後の再現性を検討した結果、【内発的動機】、【経済面・自立】、【過去の経験】、【夢・憧れ】の相関係数はいずれも0.50以上であり、高い再現性を示した。【他発的動機】についてはやや相関係数が低かったものの、有意な相関を示している。【他発的動機】に含まれる質問項目は、「他にやりたいことがなかった」、「親や教師などに勧め

られた」などであり、たとえそれが入学動機であったとしても対象者自身が正直に回答しにくい項目である可能性が高く、再現性に影響を与えた可能性もありうる。今回、第1回と第2回のデータ照合のためにパスワードの設定と記入を依頼したが、正確にパスワードを記入し、再現性の検討に用いることができた回答は38件のみであった。今後、データ照合の方法を検討し、より多くのデータを用いて再現性の確認を行う必要がある。

下位尺度間の関連性を検討したところ、【内発的動機】と【夢・憧れ】、【経済面・自立】と【他発的動機】に有意な正の相関が認められた。【内発的動機】に含まれる「社会に貢献したい」、「人の役に立ちたい、人を助けたい」などの動機が、【夢・憧れ】に含まれる「やりがい」と密接に関係することは納得できる。また、【経済面・自立】と【他発的動機】の関係においては、看護職を選択した動機が自発的なものでないとしても、経済面で自立できることは看護職を選

択する主要な動機となりうることを示唆している。

各下位尺度のクロンバックの $\alpha$ 係数は0.43～0.79の範囲であり、高い信頼性が得られたとは言いがたい結果となった。これは各因子に含まれる質問項目が2～4項目と限定されている事が影響していると考えられる。尺度の信頼性を高めるために、回答者の負担とならない程度に下位尺度に含まれる質問項目を4項目以上に増やしていくことも検討する必要がある。さらに外的妥当性を高めるために、他の尺度との関連性についても検討していく必要があると考える。

## 2. 学生の入学・職業選択動機の実態

各質問項目への回答の結果、入学・志望の動機として平均値が最も高い項目は、「資格がとれ、一生続けられる職業だから」であり、下位尺度でみると【経済面・自立】スコアが最も高かった。これはアメリカやカナダで実施された調査と同様の結果であると言える<sup>10) 11)</sup>。看護職は社会的には地位が低いとの指摘もあるが、平均年収は450万円程度との算出結果もあり<sup>12)</sup>、経済面や自立を目指す学生が選択する職業としての意味は大きいと考える。またA看護短期大学は公立の短期大学であり、私立の短期大学に比べ、学費の負担は少ないといえる。このことから、経済的な負担を減らしたいと考える学生が多くいる可能性や、3年間で看護師国家試験を受ける資格を得ることができることなどから、【経済面・自立】スコアが高くなったと考えることができる。

入学・志望の動機として、【内発的動機】下位尺度の平均点も高い傾向があった。この尺度には「人の役に立ちたい、人を助けたい」、「人と関わる仕事がしたい」、「社会に貢献したい」などの質問項目が含まれており、わが国で実施された先行研究でも高い割合で職業選択理由に挙げられている項目であった<sup>1) 3) 4)</sup>。人の役に立ちたい、人と関わりたいといった欲求は対人援助職の特徴とも言われている<sup>13)</sup>。内発的な動機は、学習意欲に影響するだけでなく、学習を継続させるために重要であると考えられている。しかし一方で、人の役に立ちたいという純粋な気持ちで看護師を志した人ほど依存傾向が強く出現する傾向があると心理職の多くの専門家から指摘されてきている<sup>13)</sup>。そのためこの尺度のスコアが高いということは、自分の力量や状況を考えず、他者を助けることを優先させる可能性があることを考慮する必要がある。

一方、【他発的動機】スコアは下位尺度のうち最も低かった。この下位尺度には「親や教師などに勧められた」の質問項目を含むが、この項目を職業選択理由として挙げている割合は先行研究でも低く<sup>7)</sup>、今回の調査も同様の結果であったことが分かる。特に看護を志す学生の多くは自らの意志で看護職を志してきていると考えることができる。それ故、他発的動機が高い学生については、その動機を内在化させることができるような関わりを検討する必要性が高いと考える。

## 3. 本尺度の応用可能性

今回作成した尺度を用いて動機の実態を把握し、学生の家族背景や社会経験の有無などの属性、心理的状态、学習に対する意欲などとの関連性を検討することが可能となると考える。また、職業選択動機に応じた教育的な関わり内容を検討することで、学習意欲を高めることや、卒後の離職率の減少に貢献できる可能性がある。

## V. 結論

本研究では、学生の入学・職業選択動機尺度を作成・評価し、その実態を把握した。15項目からなる尺度を因子分析した結果、【内発的動機】【経済面・自立】【夢・憧れ】【過去の経験】【他発的動機】の5つの因子が抽出され、1ヶ月後の高い再現性が認められた。各因子を下位尺度とし、平均値を下位尺度スコアとして算出した結果、最もスコアが高かったのは【経済面・自立】であり、次いで【内発的動機】、【夢・憧れ】と続いた。スコアが低かったのは【他発的動機】、【過去の経験】であった。今回作成した尺度により、学生の動機の実態を把握し、属性、心理的状态、学習に対する意欲などとの関連性を検討することが可能となると考えられた。

## 謝 辞

本研究にあたり、調査に快くご協力いただきました学生の皆様に感謝申し上げます。

尚、本研究は、平成20年度特別研究費の助成によって行われたものであり、ここに謝意を表します。

## 引用参考文献

- 1) 大高恵美, 三浦睦子他. 看護学生の入学時の期待と満足度の実態: 入学1年後の調査から. 日本赤十字秋田短期大学紀要. Vol.6, 2001, p.1-7.
- 2) 望月初音, 関千代子他. 学生の看護への志望動機とめざす看護師像: 看護学科第1回生入学時の調査から. つくば国際短期大学紀要. Vol.33, 2005, p.105-119.
- 3) 酒井志保, 大島弓子他. 本学看護学科学生の学校及び看護学科選択理由の検討: 本学看護学3期生と2期生の入学時調査を比較して. 日本赤十字秋田短期大学紀要. Vol.3, 1998, p.45-51.
- 4) 酒井志保, 滝内隆子他. 看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態: 本学看護学科1期生の入学時調査から. 日本赤十字秋田短期大学紀要. Vol.1, 1996, p.83-90.
- 5) 村中陽子, 滝島紀子他. 看護学科学生の入学時における看護専門職への志向と認識. 東海大学健康科学部紀要. Vol.8, 2002, p.105-113.
- 6) 矢野紀子, 羽野田花美他. 看護系大学生の職業コミットメント: 入学後2年間における経時的変化. 愛媛県立医療技術大学紀要. Vol.3, no.1, 2006, p.56-66.
- 7) 道重文子, 吉永純子他. 短大看護学生の職業レディネス別にみた志望動機: 職場選択と職業継続意識の動向. 日本看護研究学会雑誌. Vol.25, no.3, 2002, p.348.
- 8) Mooney M, Glacken M, et.al. Choosing nursing as a career: A qualitative study. Nurse Education today. Vol.28, 2008, p.385-392.
- 9) Larsen PD, McGill JS, et.al. Factors influencing career decisions: Perspectives of nursing students in three types of programs. Journal of Nursing Education. Vol.42, no.4, 2003, p.168-173.
- 10) Williams B, Wertenberger DH, et.al. Why students choose nursing. Journal of Nursing Education. Vol.36, no.7, 1997, p.346-348.
- 11) Kersten J, Bakewell K, et.al. Motivating factors in a student's choice of nursing as a career. Journal of Nursing Education. Vol.30, no.1, 1991, p.30-33.
- 12) 年収ラボ. <<http://nensyu-labo.com/>>, (参照 2008-9-30).
- 13) 遠藤優子. 対人援助職の共依存, 吉岡隆編: 共依存 自己喪失の病. 中央法規出版, 2000, p.171-179.

# Development and Validation of a Scale to Measure Motivating Factors for a Student in Choosing Nursing as a Career

Youko ICHIYANAGI, Maki TANIYAMA, Chizuko YAMAZAKI  
Kazuko TAKEUCHI, Yuuko KOHAMA

## Abstract

The aim of this study was to develop and validate a scale to measure motivating factors for a student in choosing nursing as a career. Sixteen items were included in the initial scale, and the scale was tested on a sample of 77 second-grade students from a junior nursing college. Principal factor analysis was conducted to analyze the dimensional structure and five components including “Intrinsic motivation,” “economic independence,” “past experience,” “lifelong dream” and “external motivation” were established. Test-retest reliability score of the subscales for one month was between 0.4 and 0.8, Mean score of the subscale of “economic independence” was the highest, and that of the subscale of “external motivation” was the lowest of all the subscale scores.

## Key words

Career choice, Scale development, Nursing education, Nursing students, Motivation for learning